



Enterprise Architect 9.2 feature guide

---

*by SparxSystems Japan*

**Enterprise Architect 9.2 機能ガイド**

(2011/11/21 最終更新)

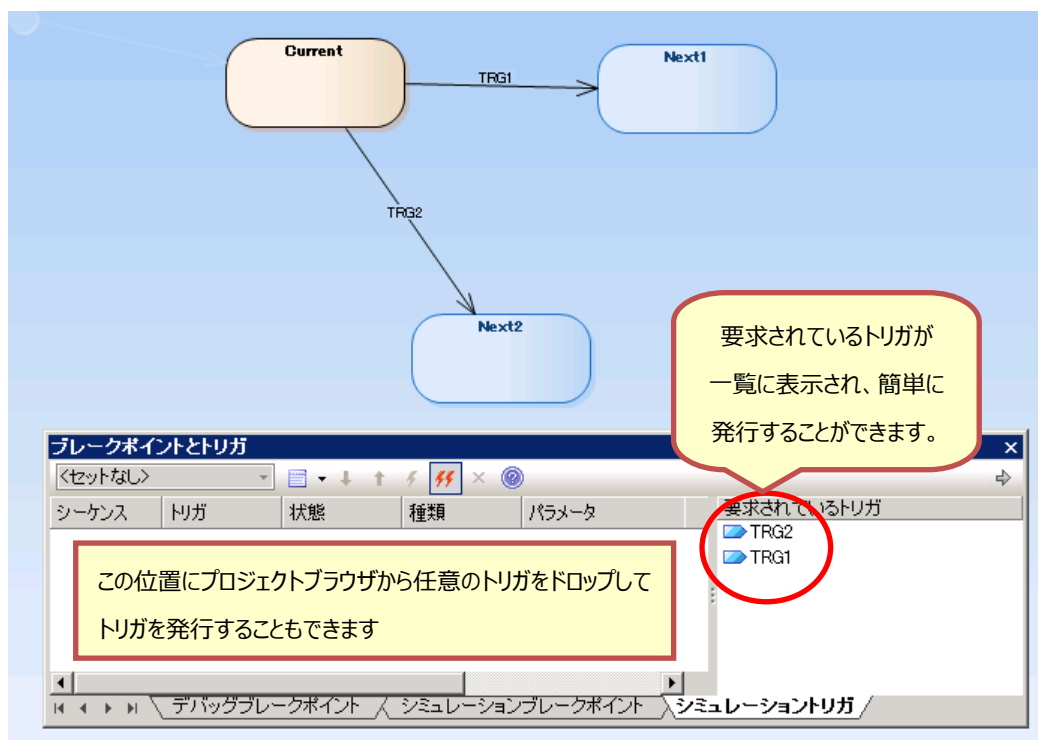


このドキュメントでは、Enterprise Architect 9.2 で追加・改善される機能についてご紹介します。青字は、それぞれの機能の呼び出し方法や操作方法についての補足です。

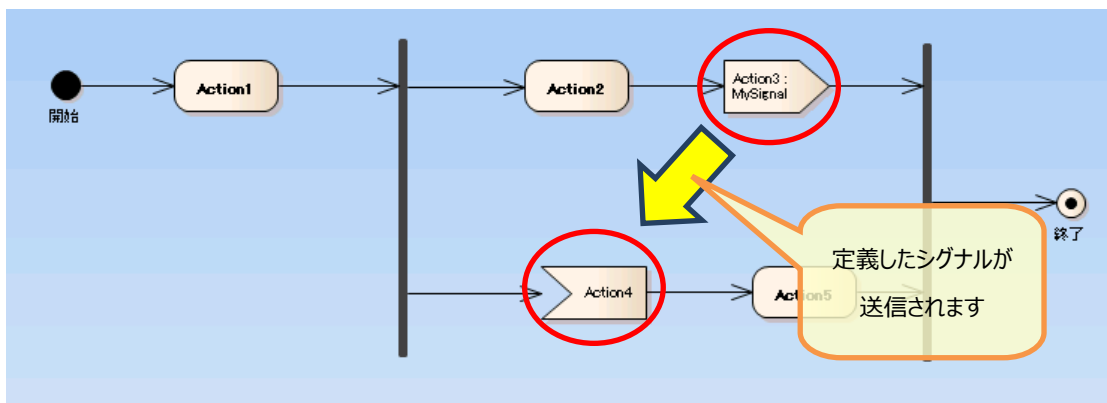
## シミュレーション機能の強化

バージョン 9.1 で強化されたシミュレーション機能について、バージョン 9.2 でさらに強化しました。具体的には、以下の点が強化されました。

- ステートマシン図に対してトリガを発行し、状態間の遷移のシミュレーションが可能になりました。  
(Enterprise Architect コーポレート版で利用可能)



- 発行するトリガ群を事前に定義し、指定した順序で順次発行することができます。定義した内容はセットとして保存し、繰り返し利用することができます。
  - フォーク要素を利用することで、複数のステートマシン図を同時に動かすことができます。
  - 遷移や entry/exit アクションなどで、指定したトリガを発行することができます。
- アクティビティ図では、シグナルを送信してマルチスレッドのシミュレーションが可能になりました。  
(Enterprise Architect コーポレート版で利用可能)



- BPMN2.0 モデルのシミュレーションが可能になりました。  
(Enterprise Architect Suite ビジネスモデリング版・アルティメット版で利用可能)

## GDB のデバッグへの対応

デバッグおよびシーケンス図の自動生成機能について、GDB(The GNU Project Debugger)に対応しました。これにより、gcc や g++でコンパイルした C 言語・C++言語のアプリケーションについてデバッグを実行し、シーケンス図を自動生成することができます。

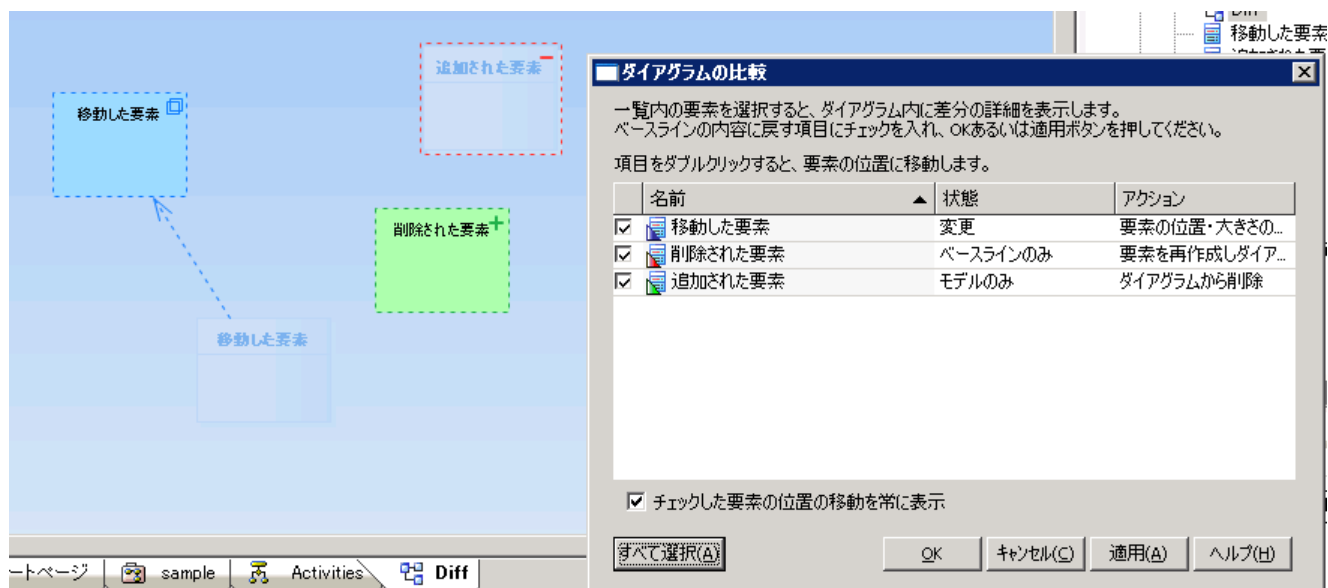
(動作解析の設定の「プラットフォーム」グループの「デバッガ」のドロップダウンリストで「GDB」を選択してください。)

なお、GDB のデバッグについてはリモートデバッグにも対応しています。Linux マシンなど他のマシンで動作するアプリケーションについて、GDB のリモートデバッグの機能を利用してデバッグすることも可能です。

## ダイアグラム上の要素の差分の可視化

ダイアグラムの変更内容(差分)について、ダイアグラム上で要素の変更内容が見える形で表示し、必要に応じて変更内容を元に戻すこと(変更情報とのマージ)ができます。この差分表示の機能は、ベースラインとして保存されている情報が対象です。今回のバージョンでは、バージョン管理されている情報には対応していません。(Enterprise Architect コーポレート版のみ利用できます。)

また、今回のバージョンでは、要素間の接続についての違いは機能の対象外です。また、シーケンス図も対象外です。

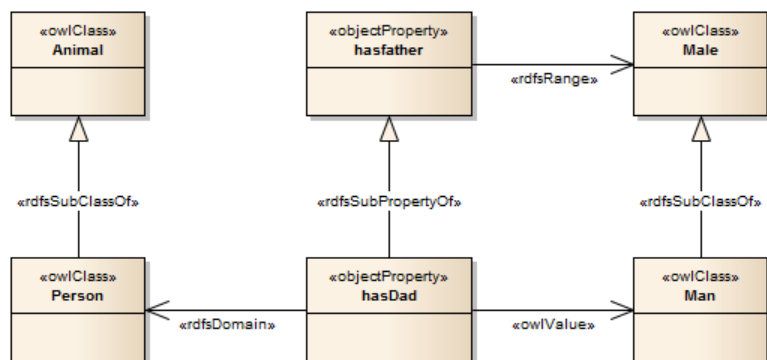


(対象のダイアグラムをプロジェクトブラウザで右クリックし、「ベースラインと比較」を実行してください。)

## ODM への対応

OMG が定義する ODM(Ontology Definition Metamodel: オントロジー定義メタモデル)のモデリングを可能にする、MDG Technology for ODM が利用可能になりました。

(OWL/RDF ファイルの入出力はプロフェッショナル版以上で利用可能です。モデリングは全てのエディションで利用できます。)



(インストール時の追加機能の選択画面で「ODM」にチェックを入れてください。「アドイン・拡張」のメニュー以下に、ODM に関連するメニュー項目が追加されます。)

## Rhapsody ファイルの読み込み対応

IBM 社が提供するモデリングツール Rhapsody で作成されたモデルを、Enterprise Architect に読み込むことができるようになりました。対象は、拡張子 rpy のファイルと、rpy ファイルと同じ位置に存在し、\_rpy で

終わる名前のパッケージになります。

なお、拡張子 rpy の形式での出力には対応していません。

(メインメニューから「アドイン・拡張」→「モデルの読み込み」→「Rhapsody」を選択してください。)

## その他の改善

- UML2.4.1 に対応しました。
- SysML1.2 のいくつかの要素の区画の描画速度を改善しました。
- 描画スクリプトで、子要素についての情報を表示するためのコマンドを追加しました。
- 要求要素の種類を変更した場合に、プロジェクトブラウザで以前の種類もステレオタイプとして表示される問題を修正しました。
- 操作のプロパティ画面で、保存ボタンの挙動が不適切であった問題を修正しました。
- ポートのインスタンス間に作成した接続の向きを変更できるように改善しました。
- 要素を選択してノートサブウィンドウに入力した場合に、改行が含まれない場合に入力内容が反映されない問題を修正しました。
- XMI の読み込み時に、シーケンス図のメッセージの「条件」の内容が一部欠落する場合がある問題を修正しました。
- RTF ドキュメント生成時に、テンプレートの内容によっては要素が重複して出力される問題を修正しました。
- 要素の選択時のハンドル(黒い四角)の描画位置を変更し、選択時でも要素の内容を見やすくしました。